

## 第4分科会

### 支援教育におけるICT活用の現状とこれから

講師：日本福祉大学

教授 金森 克浩

大阪教育大学科学教育センター 准教授 仲矢 史雄

「特別支援教育におけるICT活用の現状とこれから」・・・金森先生



71歳の女子中学生を例に挙げて・・・60年前、脳性麻痺障害のため義務教育を受けることができなかった。喋れるが、肢体に不自由があり、車椅子の生活。当時今のようなICTがあり、配慮があれば、教育が受けられたのではないかな。

親が受けていた20年前の教育と、今の教育。子供達が大人になる20年後。そのまま40年後も生かされるとは限らない。我々の学びも動的である。子供達に「何を教えるか」だけではなく、子供達が「どのように学ぶか」という視点が重要である。

ICTを使うと、時代は必ず変わる。やってきたことを捨てるわけではないが、都合よく変わっていけるツールになる。自分が進化していかないといけない。そうすれば、対応していく力も伸びていく。

ICT活用のポイントは、4観点9項目。ICT機器の得意分野

実践しながら子供の様子をモニタリング→ドロップトーク

上手な情報収集。自分で探せないなら上手な人を味方につける。探すときは、自分の得意なもので良いので、情報も発信しよう。（動画174iamsam youtubeを例に挙げて）

これからの10年を考えると、見えないものがでてくるだろう。面白そうなものが、今後でてくるかな？と考えて欲しい。使うことで上手になる。

『ICT開発 「これまで」と「これから」』・・・仲矢先生

ロボットに対して興味がある障害児を引き受けることになった。講習会に来るために、バスの乗り方も覚え、アルファベットを書き込むことも覚えた。最後には、複雑な迷路のライントレースまでキーボード入力もできるようになった。やりたいことは出来る。きっかけで力がついて、名前もかけるようになった。これが、特別支援との最初のかかわりである。

**\*ICT活用することの効果**

多くの小学生は、「比例・割合」の課題が苦手。

阿倍野区でロボット学習を実施（比例と割合 調査を実施）

ロボットのプログラミングを学習することによって、小数点の計算や比例と割合を理解することができ、ほぼ倍の正解率をだすことができた。

目的がないとハードルが高い勉強は難しいが、目的を持つ学習は効果を期待できる。

**\*OMELET基本機能についての説明**

VTR紹介 紙教材も読み込める。○×がつけられる。

公開にすると、生徒のアプリですぐに見られる。

アプリ化で時間短縮できる。

フォントを減らす。写真の編集機能無し

さらに目的によって別アプリ化

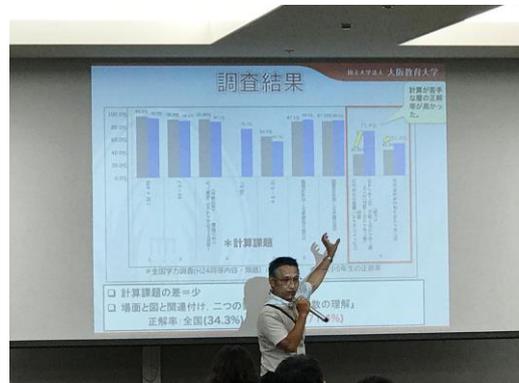
「読み」支援に特化 「よめるんです」

**\*OMELETを使うメリット**

学習記録を見ることで、生徒の心理を知ることができる。

消すことができるので、集中力が向上する。

自分自身でも間違いを振り返ることができる。



**第4分科会 質問コーナー**

金森先生

Q: 板書について。タブレットで写真を撮るのはノートとして認められるか。

A: ある意味板書は、書き写すことが目的ではない。子供達がどういう学びをするか。プロセスも大事だ。板書もプレゼンも撮って終わり、も多い。それでは駄目。

受験にタブレットを持ち込む場合は、日常的にICTをどのように使っていたかが、問われる。

仲矢先生

Q: OMELETでどのように教材を作るのかを知りたい。

A: 具体的に OMELET を使って、教材の作り方を指導—

## 大阪府支援教育研究会創立65周年記念研究大会

その他 Q: 十年後の ICT テクノロジーはどうか?

Q: プログラミング学習はどうなっていくか? など